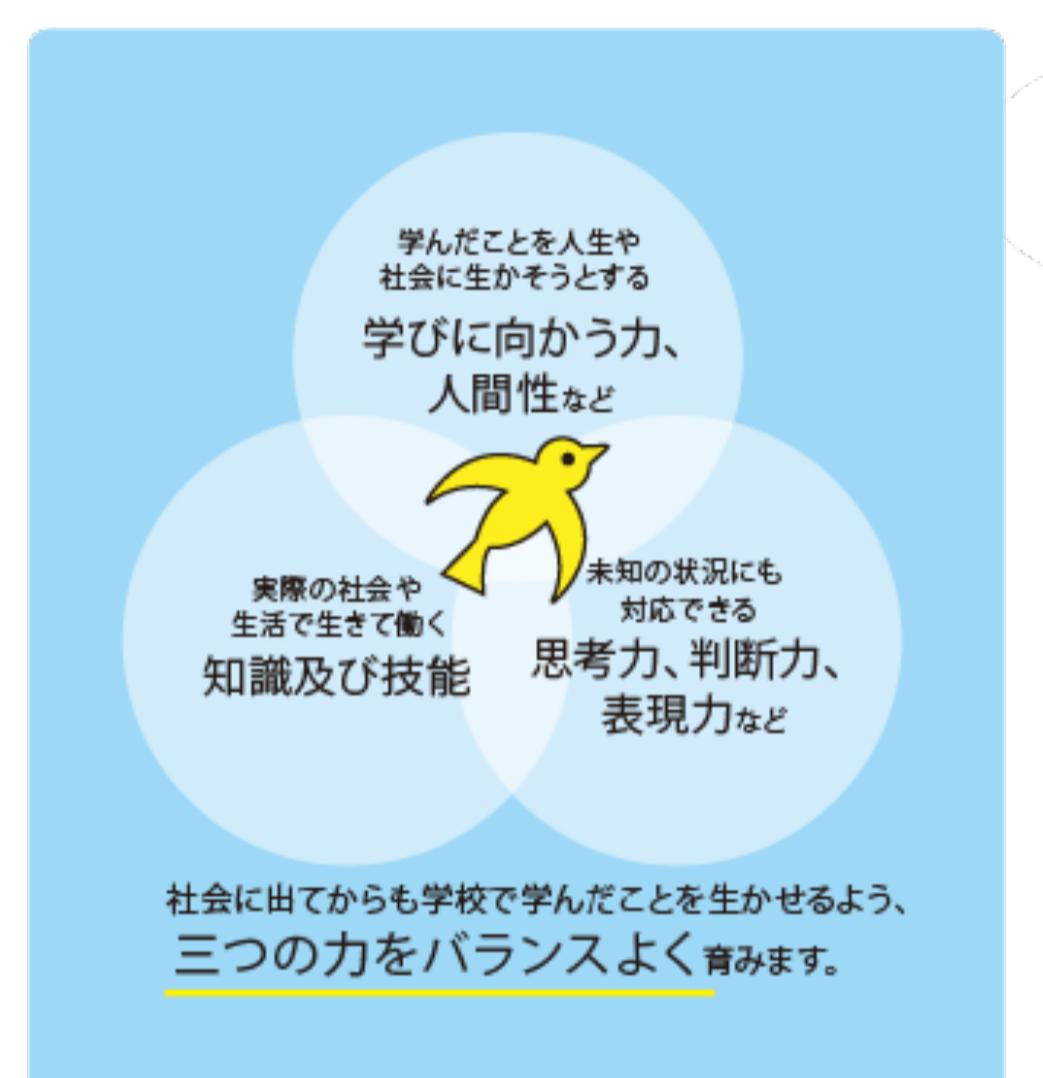


学校を地域に拡張する

柏の葉高校 総合的な探究の時間による地域共創PBLの紹介

- ▶ 閉ざされた学校から、地域の共創の場へリフレーム
- ▶ 探究中心から、行動中心へ思考様式を変化させる
- ▶ 経験学習と講師間連携に、デザイン研究のツールを導入

問い合わせ：総合探求の授業を知っていますか？



- 「総合的な探究の時間」（総探）は、2022年度から高校で必修化されました。
- 「生きる力」として資質・能力の3つ柱を育成します。
- どのように学ぶのか？→主体的・対話的に進めます。いわゆる「アクティブラーニング」です
- 私の疑問：今必要なのは、「行動」ではないでしょうか？

HMWQ：どうしたら、高校生が青春体験のような総探から、自己効力感を得て、次も何かに挑戦できるようになるだろうか？



- 机から離れ、地域に何かを提供する・巻き込む・「ありがとう」と言われる存在となることを一度経験してみる。
- 自分の「得意なこと・したいこと」を知る。
→地域を巻き込んだフェスを自分たちで企画・実施する。
- 学校を地域に開くことで、地域社会関係資本を活用する。
- NPOが学校と地域社会関係資本を繋ぎ、学校の伴走者となる。
- RIHSAでは、デザイン研究者による授業、デザイン教育フレームワーク、各種ツールを提供しました。

問い合わせ：5年後はあなたの部下です。準備はできていますか？

- RIHSAのデザイン研究では、技術コンサルティングにより、思考様式変革と行動変容の研修を提供可能です。
- 既に、企業（自動車・モビリティ,etc）、学校法人（高校・大学）への提供実績があります。近日中に、企業インタビュー記事を公開予定です。
- また、社内変革と一緒に実践・研究したい方々との共同研究も募集しています。
- 詳しくは、発表担当者と名刺交換または下記までご連絡ください。



「まちとマルシェのクロスフェスタ」の様子